BUSINESS REPORT





株主の皆さまへ　第109期 報告書

2018年12月1日から2019年11月30日まで

P7

キーワードで知る津田駒

99.7%

津田駒工業株式会社

株主の皆さまへ



代表取締役会長　菱沼捷二（右）
代表取締役社長　高納伸宏（左）

2018−2020 スローガン

トップを目指せ
強い津田駒 新たな挑戦

連結業績ハイライト

受注高	経常利益
28,227百万円 （前期47,506百万円）	△275百万円 （前期841百万円）
売上高	**親会社株主に帰属する当期純利益**
37,698百万円 （前期42,201百万円）	△594百万円 （前期823百万円）
営業利益	**1株当たり当期純利益**
△228百万円 （前期934百万円）	△92.97円 （前期128.91円）

（注）△印は、損失を示しています。

第109期報告書をお届けするにあたり、ひとことご挨拶を申し上げます。昨年も、全国で大きな自然災害が発生いたしました。被害に遭われました皆さまには、心よりお見舞いを申し上げます。

Q 米中貿易摩擦問題が大きく影響しました。

A **第2四半期までは利益を確保しましたが、第3四半期以降に影響が顕在化しました。**

当社は2015年度以来、順調に売り上げを伸ばし、収支も改善してまいりました。その過程において、繊維機械事業では、インド市場の高額紙幣廃止などの金融問題や中国市場の環境問題など、新興国特有のさまざまな問題がありましたが、当社は受注の確保と売上の拡大、生産効率の向上、生産能力の拡大に注力し、克服してまいりました。

しかし、2018年に始まった米中貿易摩擦問題では、両国の覇権争いがからみ、その動向は非常に不透明なものとなりました。このため、2019年に入り、当期のわが国経済におきましても、当初は緩やかな回復傾向の継続が伝えられておりましたが、米中貿易摩擦問題の混迷が深まり、両国の追加関税の応酬がエスカレートするにつれ、製造業を中心に不透明感が拡大し、特に期間の後半には受注環境の悪化が顕著となりました。

当社におきましては、受注環境の不透明感が見られた中でも、第2四半期においては生産・売上は堅調に推移し、利益を確保いたしました。しかし、第3四半期以降、繊維機械事業、工作機械関連事業ともに、お客さまの設備投資計画に慎重な見方が広がり、受注・売上・生産の減少を避けることができませんでした。

Q 米中貿易摩擦問題は、当社とどのような関係があるのでしょう。

A **追加関税の対象製品に、当社のお客さまの製品が含まれました。**

繊維機械事業に関係するところでは、米国の中国製品に対する追加関税の第3弾が2018年9月に発動されました。この中に、当社のお客さまの製品であるシーツやタオルなど、いわゆるホームテキスタイル分野の製品が含まれました。2018年の発動当初には10%でしたが、2019年5月には、これが25%へと強化されました。

さらに第4弾として2019年9月1日に、中国から米国に輸出される大部分の一般衣料に対して15%の関税が追加されました。こうした一連の動きが、米国向けの輸出を中心とした当社のお客さまに大きな影響を及ぼしました。



一方、繊維機械事業ではインド市場の低迷も大きく影響しましたが、これは米中貿易摩擦問題とは別の要因によります。インドでは、急速な金融制度改革が進む中で、不良債権問題が顕在化し、銀行融資の厳格化が継続しました。一時的に緩和の気配が見られましたが、L/C発行の遅れに本格的な改善が見られず、計画を大きく下回る結果となりました。

工作機械関連事業に関しても、やはり、米中貿易摩擦問題の影響が大きく、中国国内での自動車産業やEMS関連産業での設備投資が大幅に減少する中で、当社の主要な納入先であります工作機械業界の受注が減少しました。また、堅調に推移しておりました日・米・欧の自動車業界でも、新規設備投資案件の延期などの動きが強まり、受注・売上ともに低調に推移いたしました。



最新技術に対する関心は高い(ITMA2019展)

Q この状況はいつまで続くのでしょう。

A 徐々に回復の兆しが見えてきました。

米中貿易摩擦問題は、普通の経済問題とは異なる一面があるように思いますので、予想は大変難しいのですが、今年1月15日に米中の「第1段階の合意」が正式署名され、第4弾で発動された追加関税の15％が7.5％に引き下げられることになりましたので、当社の繊維機械事業における中国のお客さまには、よい影響が出るものと思われます。また、中国国内向けの製品を手がけるお客さまの投資が戻ってきており、徐々に受注が入り始めてきました。新型肺炎の影響を注視する必要がありますが、期間の後半は生産・売上の回復を見込んでおります。

また、中期的には世界の経済成長は、プラスで推移すると見られております。さらに、世界では5Gや電気自動車、自動運転技術など、今までとは異なる技術基盤に立ったイノベーションが始まろうとしています。こうした流れの中で、当社の技術が生かされる、新たな需要が生まれると考えています。

Q 会社としては、今後どのように対策していきますか。

A 新市場の開拓、新製品の開発、生産効率化を確実に進めます。

販売面では、繊維機械事業、工作機械関連事業ともに、引き続き新たなお客さま、市場の開拓を



スペインで展示したエアジェットルーム

進めてまいります。また、新製品の開発を進め、市場投入を図る予定です。

コンポジット機械事業では、海外展示会で新製品を発表するなど受注の取り込みに注力してきました。技術的に高い評価をいただき、多くの引き合いや試験などのご依頼をいただいております。今後、開発を進めてまいりました製品の販売促進を図ってまいります。

TRI（ツダコマ・ロボティック・インテグレーション）事業は、製造業向けに販売促進を図る一方、社内設備への展開を進めています。その中で、ノウハウを蓄積するとともにロボットの導入を検討されるお客さまに実際の稼働をご見学いただけるショールーム化に向けた準備を進めております。

鋳造部門につきましては、当社は高品質な鋳物の鋳造技術と鋳物部品の加工技術を持っていますので、この特徴を前面に押し出して、積極的に外部からの生産受託を取り込む方針で販売活動を展開しています。

生産面では、生産効率の向上と生産能力の拡大のため、複数の工程でTRI（ツダコマ・ロボティック・インテグレーション）を活用した生産システムの構築を進めており、順次稼働を開始してまいります。

輸出比率が高い当社において、国際経済や政治の影響は避けることはできませんが、生産の効率化と新製品の開発に注力して、景気の回復局面に迅速に対応し、利益機会を逃さぬよう備えていきたいと思います。そして、景気変動に強い体制を構築するとともに、国際的な関心が高まる環境問題に配慮し、持続可能な社会の実現に貢献するモノづくりを進めることが、これからの重要な課題と考えています。



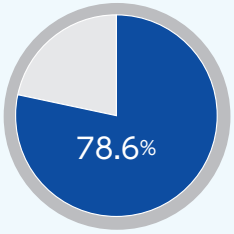
TRI担当者と語り合う高納社長

事業別の状況

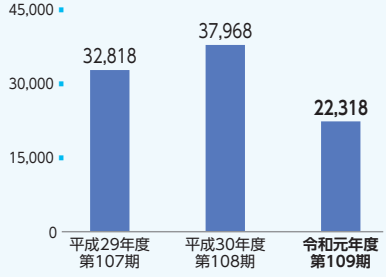
繊維機械事業

受注高	22,318 百万円	（前期比41.2％減少）
売上高	29,648 百万円	（前期比11.1％減少）
営業利益	353 百万円	（前期比71.3％減少）

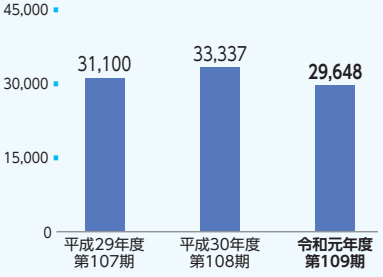
売上高構成比



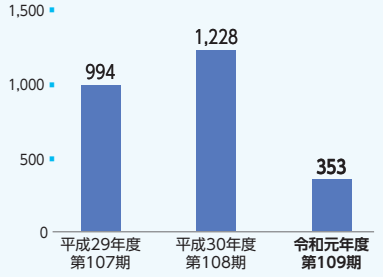
受注高 （単位：百万円）



売上高 （単位：百万円）



営業利益 （単位：百万円）



ツダコマの主な製品

繊維機械

エアジェットルーム・ウォータジェットルーム

水や空気の噴射力を使ってヨコ糸を織り込んでいく織物機械がジェットルームです。最新の電子制御技術を駆使して、1分間に1,000本以上のヨコ糸を織り込みながら、現代の産業界に欠かせない省エネ・省人化を両立させました。

流行の衣料素材から産業資材までさまざまな織物を織りこなします。

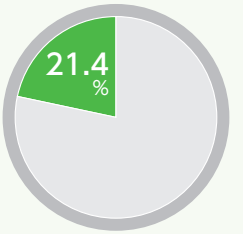


タオル用エアジェットルームZAX9200*i*Terry

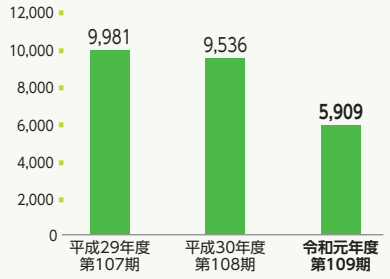
工作機械関連事業

受注高	5,909 百万円	（前期比38.0%減少）
売上高	8,050 百万円	（前期比9.2%減少）
営業利益	736 百万円	（前期比24.0%減少）

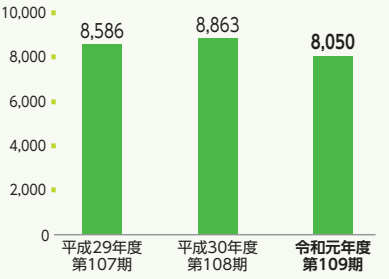
売上高構成比



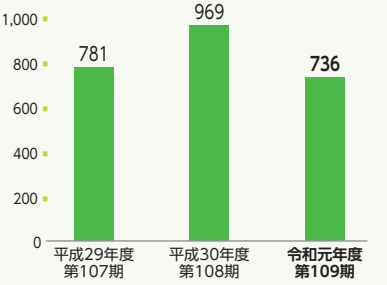
受注高 （単位：百万円）



売上高 （単位：百万円）



営業利益 （単位：百万円）



工作機械関連

NC円テーブル・マシンバイスなど

精密な部品加工に欠かせないNC円テーブルやマシンバイスを開発しています。

人気のスマートフォンから航空機、宇宙産業まで、さまざまな産業分野でご利用いただける製品ラインアップと高速性、高精度、耐久性が最大の特長です。



新型2連NC円テーブル

コンポジット機械

炭素繊維複合素材の自動積層機

21世紀の素材革命といわれる炭素繊維複合素材の自動積層機を開発しています。すでに新型航空機の機体の部材生産に使われています。また、自動車など炭素繊維複合素材の利用分野の拡大に先立ち、新しい自動積層機や周辺装置を開発しています。



新型自動積層機

キーワードで知る津田駒

「99.7%」

「3K」と誤解されがちな鋳物工場ですが、実はリサイクル率99.7%を誇る近代的な環境配慮工場なのです。



自動化された鋳造ライン

津田駒の鋳物工場は、1934年に、金沢市の本社に竣工しました。シャットル織機の高速化が求められた当時、高速稼働に耐えられるより高い剛性と振動吸収性能が織機の駆体に必要でした。そういう中で、加工のしやすさと振動の吸収性を備えた鋳物を、自社で生産することになったのです。

1971年には、鋳造専門の工場として松任市(現在の白山市)へ移転、1980年以降の超高速織機ジェットルームの発展を支えました。現在では、多品種の鋳物を効率的に生産できる4本の自動造型ラインを構築し、月に1,000トンの鋳物を製造する能力を備えています。

生産体制を整える一方で、環境配慮や地域社会との共生も重視してまいりました。2018年には、産業廃棄物の排出量2,161トンに対して、埋め立てられた廃棄物の割合は6.3トン(0.3%)にとどまり、残り(99.7%)はすべてリサイクルされています。また、産業廃棄物を出さないために、鋳造の際に中子(中に空洞がある鋳型を作るときに、鋳型の中にはめ込む砂型)の使用を減らす製造方法にも取り組んでいます。

さらに、最新技術を使った品質管理や生産効率の向上も進めています。例えば、巣と呼ばれる鋳物内部の欠陥対策のために、コンピュータで欠陥の予測のシミュレーションを行っています。また、ロボットシステムを備えた自動化装置を導入した省力化システムも計画しています。

当社の主要製品は、繊維機械と工作機械ですが、製品開発の土台には長い歴史を持つ鋳物部品の存在があります。当社では、鋳造品の技術をより広く、顧客に知っていただくため、鋳造品の受託生産にも力を入れています。今日、当社の鋳物製品は、自動車部品をはじめ、各種産業機械を扱うお客さまからご注文をいただいています。



景観に配慮した鋳物工場

ドイツでIoT、自動化をアピール


IoT対応型NC円テーブル

2019年9月、ドイツで開催された世界3大工作機械展示会の1つであるEMO Hannover 2019に出展いたしました。第4次産業革命と言われる「Industry 4.0」が進むドイツでの展示会で、当社は円テーブルにセンサを組み込み、予防保全を可能にしたIoT対応型NC円テーブルを出品いたしました。また、新開発したTPC-DDというコントローラを用い、ロボットと円テーブルを制御する場面を実演し、「自動化」と「生産性向上」を来場者にアピールいたしました。

「いしかわ次世代産業創造支援事業」に採択


開発中の自動積層機

コンポジット機械事業で進めている「熱可塑性炭素繊維複合部材の高精度湾曲・連続プレス成型技術の開発」が、令和元年度「いしかわ次世代産業創造支援事業」に採択されました。これは、シート状で供給される炭素繊維素材を、高精度で積層（積み重ね）し、折り曲げて成型するという作業を自動で連続的に行う装置の開発に関する技術です。津田駒のコンポジット機械事業は、炭素繊維複合部材の加工の自動化を進め、部品量産化への道を切り開いています。

津田駒神社　令和の大改修


生まれ変わった津田駒神社

本社敷地には創業者の津田駒次郎翁を祀った津田駒神社があります。1949年、戦後の混乱を乗り越えた創業40周年の年に建立されましたが老朽化が進んだため、2019年の創業110周年を記念して、大改修が行われました。

10月の竣工慶賀祭に参列した社員は、生まれ変わったお社を前に「創業者魂を忘れることなく、今後もお客さまから必要とされる会社であり続けたい」と心を新たにしました。

スペインで繊維機械のIoTをアピール



TISS（ツダコマ インターネット サポート システム）

2019年6月、スペイン・バルセロナで開催された国際繊維機械見本市ITMA 2019で「TISS」（ツダコマ インターネット サポート システム）を出展いたしました。TISSはIoTを活用し、ツダコマからお客さまに、的確な保全作業時期をお知らせするシステムです。これにより、お客さまの工場では、高いレベルの保全活動と稼働改善を行うことが可能になります。お客さまが抱える問題を解決する有効なシステムとして、来場者の皆さまから高い評価をいただきました。

連結財務データ

連結貸借対照表 (単位：百万円)

科　目	前　期 平成30年11月30日現在	当　期 令和元年11月30日現在
資　産　の　部		
流動資産	27,059	22,658
固定資産	12,362	12,793
有形固定資産	9,321	9,521
無形固定資産	196	577
投資その他の資産	2,845	2,694
資　産　合　計	39,421	35,452
負　債　の　部		
流動負債	17,430	14,723
固定負債	7,359	6,888
負　債　合　計	24,789	21,612
純　資　産　の　部		
株主資本	13,592	12,900
その他の包括利益累計額	△128	△297
非支配株主持分	1,168	1,236
純 資 産 合 計	14,632	13,839
負債純資産合計	39,421	35,452

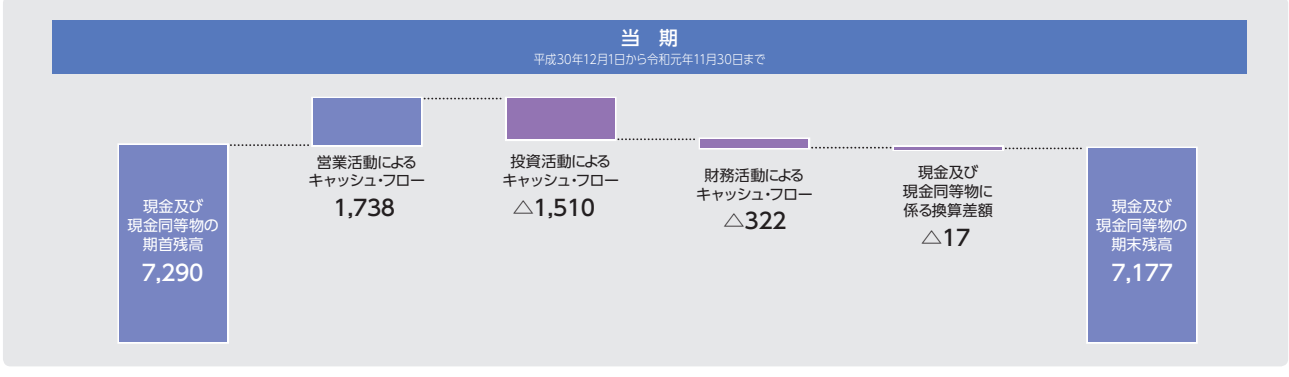
(注) 1. 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。
2.「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日) 等を当期の期首から適用しており、前期の金額につきましては、当該会計基準等を遡及適用した後の金額となっております。

連結損益計算書 (単位：百万円)

科　目	前　期 平成29年12月 1日から 平成30年11月30日まで	当　期 平成30年12月 1日から 令和元年11月30日まで
売上高	42,201	37,698
営業利益	934	△228
経常利益	841	△275
税金等調整前当期純利益	817	△291
当期純利益	912	△521
親会社株主に帰属する当期純利益	823	△594

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

連結キャッシュ・フロー計算書の概要 (単位：百万円)



会社概要／株式の概況

会社概要

本社所在地　〒921-8650 石川県金沢市野町5丁目18番18号
設　　立　昭和14年12月30日（創業　明治42年3月）
資 本 金　123億1,654万円
従 業 員　961名

役員の状況（令和2年2月末日現在）

代表取締役会長	菱沼捷二	
代表取締役社長	高納伸宏	法務・コンプライアンス室担当
常務取締役	松任宏幸	管理部門統括、総務部長、輸出管理室長、津田駒機械設備（上海）有限公司　董事長、津田駒機械製造（常熟）有限公司　董事長、ふぁみーゆツダコマ株式会社　代表取締役
取締役	山田茂生	共和電機工業株式会社担当、共和電機工業株式会社　代表取締役
取締役	北野浩司	製造部門統括、品質保証部門担当、品質保証部長
取締役	坂井一仁	コンポジット機械部門統括、準備機械技術部門担当、準備機械技術部長、株式会社T-Tech Japan　代表取締役
取締役	大森充	工作機械関連事業統括、工機技術部長、航空機部品推進室長、ツダコマテクノサポート株式会社　代表取締役
取締役	寺田武志	繊維機械事業統括、繊維機械販売部長、TSUDAKOMA SERVICE INDIA PRIVATE LIMITED　代表取締役
取締役	越馬進治	
取締役	潮田資勝	
常勤監査役	橋本徹	
常勤監査役	長谷博史	
監査役	澁谷進	（澁谷工業株式会社　取締役副会長）
監査役	梶政隆	（カジナイロン株式会社　代表取締役社長）
執行役員	浅井俊和	製造第1部長
執行役員	室井哲也	生産技術部長
執行役員	山和史	繊維機械技術部長
執行役員	宮田博幸	調達部門担当、調達部長
執行役員	林隆峰	津田駒機械製造（常熟）有限公司　総経理

＊取締役　越馬進治氏及び潮田資勝氏は社外取締役です。
＊監査役　澁谷　進氏及び梶　政隆氏は社外監査役です。

株式の概況（令和元年11月30日現在）

株式の状況

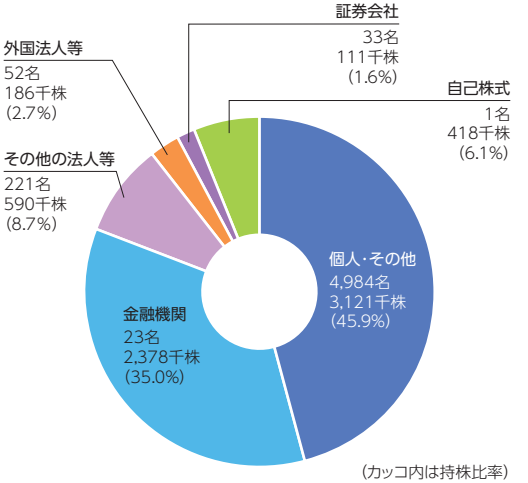
①発行可能株式総数	19,900,300株
②発行済株式の総数	6,807,555株
（内自己株式の数）	（418,429株）
③単元株式数	100株
④株主数	5,314名

大株主の状況

株主名	持株数（千株）
津田駒取引先持株会	978
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社（信託口）	742
明治安田生命保険相互会社	350
株式会社北陸銀行	258
株式会社北國銀行	232
三井住友海上火災保険株式会社	178
東京海上日動火災保険株式会社	177
ツダコマ従業員持株会	177
日本マスタートラスト信託銀行株式会社（信託口）	103
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社（信託口5）	80

（注）当社の保有する自己株式418千株は上記表には含んでおりません。

株式の分布状況



（カッコ内は持株比率）

DREAM NAVIGATOR
SINCE 1909
TSUDAKOMA

株主メモ

事業年度	毎年12月1日から翌年11月30日まで
基準日	定時株主総会・期末配当 毎年11月30日 中間配当 毎年5月31日
定時株主総会	毎年2月
公告方法	当社ホームページ上に掲載
上場証券取引所	東京証券取引所（第1部）
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
郵便物送付先	〒168−0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社　証券代行部
（電話照会先）	TEL 0120−782−031（フリーダイヤル） 取次事務は、三井住友信託銀行株式会社の全国各支店で行っております。

ホームページのご案内
https://www.tsudakoma.co.jp/